

# 宝塚から被災地復興支援へ

妃乃あんじ氏 一般社団法人change  
代表理事

トラベル懇話会の第38回夏期セミナーが7月8～9日、神奈川県箱根町で開催され、震災復興支援活動を行う一般社団法人changeの妃乃あんじ代表理事が講演した。元タカラジェンヌの同氏が華やかなステージから東北の被災地に舞台を移し、復興支援に取り組む思いを語った。

華やかな宝塚歌劇の世界を退き、被災地支援活動に関わるようになった理由をよく尋ねられます。そこには母の存在が大きく影響しています。宝塚入団7年目に母が病を告げられ、闘病生活に入りました。私は看病しながら舞台を務め続けましたが、その後、看病に専念する決心をしました。公演スケジュールの都合もあり、退団時期を半年後の11年10月と決めました。しかし、母はそれを待たずに同年2月に天国へ旅立ってしまったのです。そして、半月も経たないうちに東日本大震災が発生しました。母を亡くした失意の中、なんとか宝塚での責務を全うしましたが、退団後は希望も目標もないどん底の日々を送っていました。すべてをなくし、むなしさだけを噛みしめていた私は、そこで初めてボランティア活動に参加しようと目覚めたのです。

ファンの方々からの応援費を義援金に変え、被災地に直接届けてからボランティア活動に入ろうと考えました。被災地の中から南三陸町に的を絞り、町長との面会を求めたところ、時間を割いていただけることになりました。寄付金を手渡し言葉を交わすと、町長が「宝塚市とは支援協定を交わしており、昨日も市長が挨拶に来町してくれた」と教えてくれました。そんなことすら知らずに訪れた南三陸町でしたが、特別なご縁を感じ、「自分に何ができるか考えて必ず戻ってきます」と町役場を後にしました。

## 気持ちだけで突っ走った2年半

それから丸1カ月、自分に何ができるか悩み続け、初めにボランティアツアーを実施することにしまし

た。宝塚時代のファンや身内、仲間を募り、12年に南三陸町や石巻市の支援に向かいました。それからツアーを7回企画し、被災地でさまざまな活動に従事しました。被災地支援について講演した高校の生徒たちを東北へ連れていったり、南三陸町の名所ながら津波で流されたヒマワリ畑を復元させる「ひまわりプロジェクト」に参加するボランティアを送り込んだこともありました。

震災直後に沖縄から駆け付けた自衛隊員が南三陸町の子供たちに三線を教えたことがきっかけで生まれた、小・中・高校生の三線演奏グループ「サンシズジュニア」の演奏会開催に合わせたツアーも行いました。3カ月間にわたって現地に滞在し、遺体捜索活動のボランティアに従事したこともあります。毎日朝から晩まで泥と格闘しつつ捜索を続け、120に及ぶ遺骨を警察に引き渡すことができました。

また、被災者が仮設住宅エリアから外出しない生活不活発病が問題視された時期には、病気の予防と改善を兼ねて毎月定期的にフラダンス教室を無料開催しました。その会場に一番乗りで駆け付けてくれた漁師のおじさんがいました。私が最初に南三陸町を訪れ、仮設住宅でおばあさんの話し相手ボランティアをしていた時に、「宝塚あがりのお嬢に何がわかる。出ていけ！」と怒鳴ったおじさんでした。2年間、毎月のように町を訪れ顔を合わせても、口もきいてくれなかった。その方が来てくれたのです。告知案内で開催を知り、真っ先に会場に現れて、「俺に似合うスカートはどれだ？」と尋ねてくれました。それが私とおじさんの初めての会話でした。

## 子供の不安解消から教材に

そんなふうには無知ながら気持ちだけで突っ走ってきたボランティア活動でしたが、ふと気づくと宝塚時代の貯金も底をつき、個人での活動にも限界を感じ始めました。しかし、南三陸町長をはじめ、町の方々から、「復興もこれからが一番大変なんだ。大きなことをしてくれなくてもいいから、継続的に細く長く続けてもらいたい。個人としての活動が難しければ法人を立ち上げてみては」とアドバイスを受け、14年に一般社団法人を立ち上げました。

「共に笑顔にチェンジしよう」との思いを込めて団体名は「change」にしました。被災地の子供のための活動が主目的です。被災地で何が必要なかを徹底的に調査した結果、幼児期の子供たちの精神問題が深刻だと知ったからです。実に4人に1人の子供が暴力や引きこもりといった問題を抱えていたのです。原因を探ると、住居や仕事など先々の生活に不安を抱える親の不安を敏感に感じ取った子供が、それをうまくアウトプットできずに問題を引き起こすことがわかりました。

そこで「なりきりプログラム」を開発しました。誰もが知っている童話をもとに、全員が物語の登場人物や主人公になりきり、歌って踊って楽しみながら、体験を通じて想像力、表現力、考える力を引き出し、子供たちに自信をつけることが狙いです。子供たちは心のふたを取り除いてあげるだけで大きく変わります。

プロジェクターに映しだした映像と音楽を駆使しながら、子供たちを童話の世界に引き込んで“なりきる体験”をしてもらうために、宝塚出身者やプロの講師陣がパフォーマンスを披露し、子供たちを手伝います。現在、3つのプログラムを開発済みで、子供の心の問題解決に役立てるだけでなく、それぞれの物語に教育的な意味も持たせています。「赤ずきんちゃん」は防犯教育、「ももたろう」ははじめ防止教育、「3匹のこぶた」は防災教育で、被災地以外での教育にも役立ててもらっています。

なりきりプログラムは南三陸町のすべての幼稚園、保育園で取り入れてもらっているほか、気仙沼や石巻、仙台、さらには兵庫や大阪、また都内でも活用してもらえるようになりました。これまでのボラ



### Profile

ひの・あんじ ●大阪府出身。01年宝塚音楽学校入学。03年に89期生として宝塚歌劇団入団。月組で活躍した後、11年10月退団。翌月から東日本大震災の被災地で復興支援ボランティア開始。12年6月、南三陸町の復興応援大使就任。14年2月に一般社団法人「change」設立、現職。

ンティア活動の中で最も宝塚歌劇団での経験や人脈が生かせる活動であり、私が担うべき役割であると感じています。

私が活動を続けられてきたのは、ご縁が導いてくれたおかげです。ですから、支援ではなく「支縁」と表現しています。これからも皆さまのお力添えをいただきながら、被災地の復興のため長く活動を継続していきたいと考えています。

### セミナーに39人参加、議論白熱

夏期セミナーは昨年リニューアルしたばかりの箱根仙石原プリンスホテルを舞台に、会員39人が参加した。

初日には、箱根町観光協会が観光の現状を説明。昨年に噴火警戒レベルが一時上昇し風評被害に見舞われたが、

需要回復が進んでいるという。夕食後には恒例の勉強会を実施し、今年は「海外旅行をどう盛り上げていくか」をメインテーマに、商品造成や世代別のアプローチ方法について白熱した議論が交わされた。

